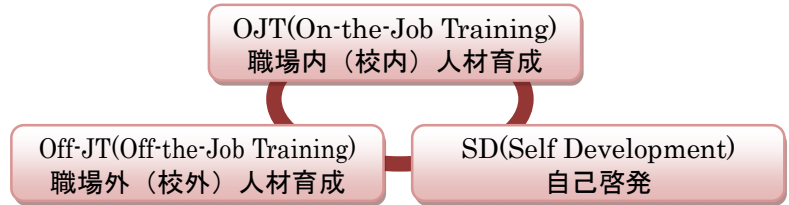


< 1 > 教師としてのキャリア形成



私たち教師は、子どもたちが社会を生き抜き、未来を切り拓いていくために必要な「生きる力」の育成という教育理念を実現しようと努めています。また、それと同時に、仕事を通じて教師としてのやりがいや生きがいを実感したいと願っています。

教員一人一人のキャリア形成（生き方）を踏まえながら、そのための資質・能力を向上させることが大切です。人材育成には、右のような三つの方法があります。



（1）校内における人材育成が求められる理由

いま、校内における人材育成が求められています。第一の理由は、「学力向上」「いじめや不登校」など、学校が抱える多様な諸課題への対処が必要だからです。第二の理由は、団塊世代の教職員の大量退職に伴い、若手教員が急速に増加しているからです。第三の理由は、若手教員だけでなく、学校の責任体制の構築に資する人材を育成できるからです。

校内における人材育成（OJT）には、次の四つの手法があります。

集団による人材育成

- ・複数の教員を対象にして行う。
（例）校内研究（研修）会、事例検討会など

管理職等のマネジメントによる人材育成

- ・校務分掌、各種グループなどでの業務を通じて行う。
（例）各種部会、教科会、学年会など

個別に実施する人材育成

- ・教員一人一人に対して行う。
（例）コーチング、日常の機会をとらえて行う助言など

職場の活性化による人材育成

- ・職場を活性化することによって行う。
（例）情報交流、外部交流、職場の雰囲気づくりなど



校内における人材育成（OJT）には、次のような効果があります。

- * 実践的であり、業務に直結する
- * 教員一人一人の状況を踏まえた能力開発ができる
- * OJT を受ける側だけでなく、行う側にとっても、スキルアップできる
- * 職場の信頼関係を醸成し、学校の組織力が向上する

(2) 教員調査からみえてきたもの

若手教員の研修や教師力向上に関する取組に対する意識と実態を探るため、全市小・中学校の採用2・3年目教員と教務主任を対象にアンケート調査を実施しました。

全19問の設問のうち、六つの設問に対する回答結果を紹介します。

		小学校	中学校	計
対象校		170校	73校	243校
対象者数	若手教員	288人	152人	683人
	教務主任	170人	73人	
有効回答数	若手教員	284	151	678
	教務主任	170	73	

<調査時期>

*小学校：平成24年9月4日(火)～9月21日(金)

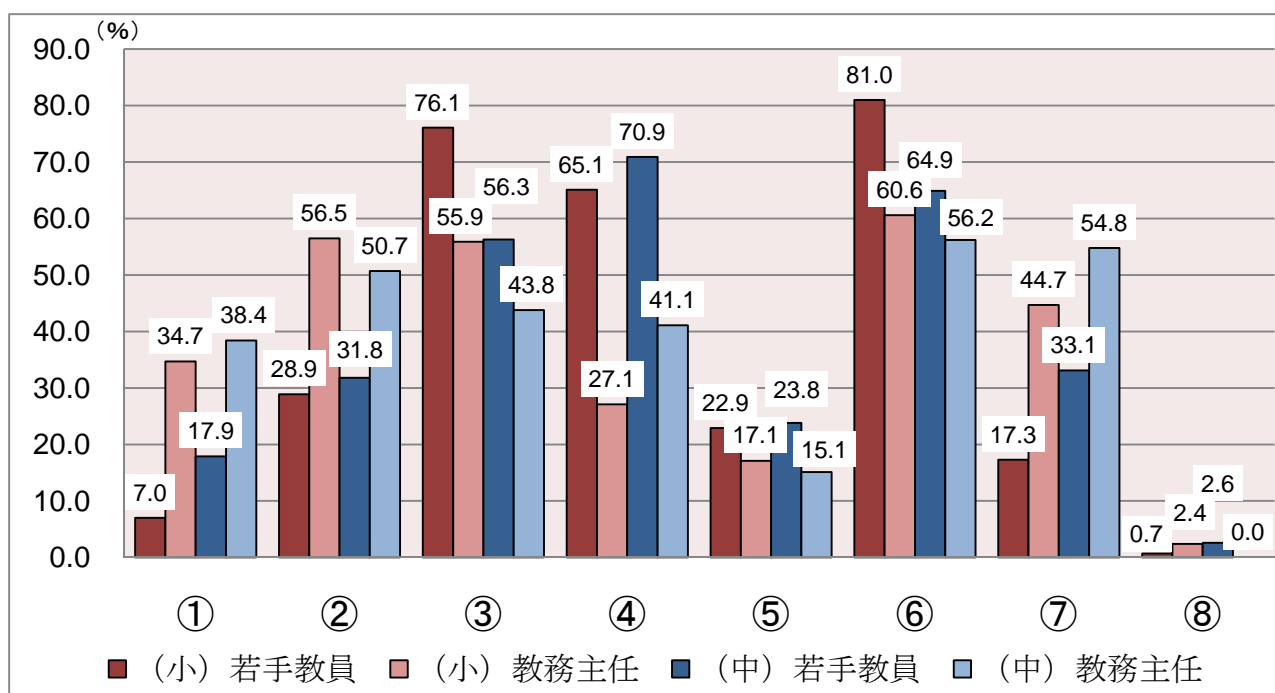
*中学校：平成24年9月19日(水)～10月5日(金)

◆ 若手教員は、「子ども理解」「実践的指導力」「教科等に関する専門的な知識」を更に高めていきたいと考えています

① どのような教師力を更に高めていきたい(高めてほしい)と思いますか。

【上位3つ選択, その他は記述】

- | | |
|--------------------|----------------|
| ①教師の仕事に対する使命感や誇り | ②子どもに対する愛情や責任感 |
| ③子どもの成長や発達を深く理解する力 | ④教科等に関する専門的な知識 |
| ⑤広く豊かな教養 | ⑥より確かな実践的指導力 |
| ⑦総合的な人間力(社会性や常識など) | ⑧その他 |



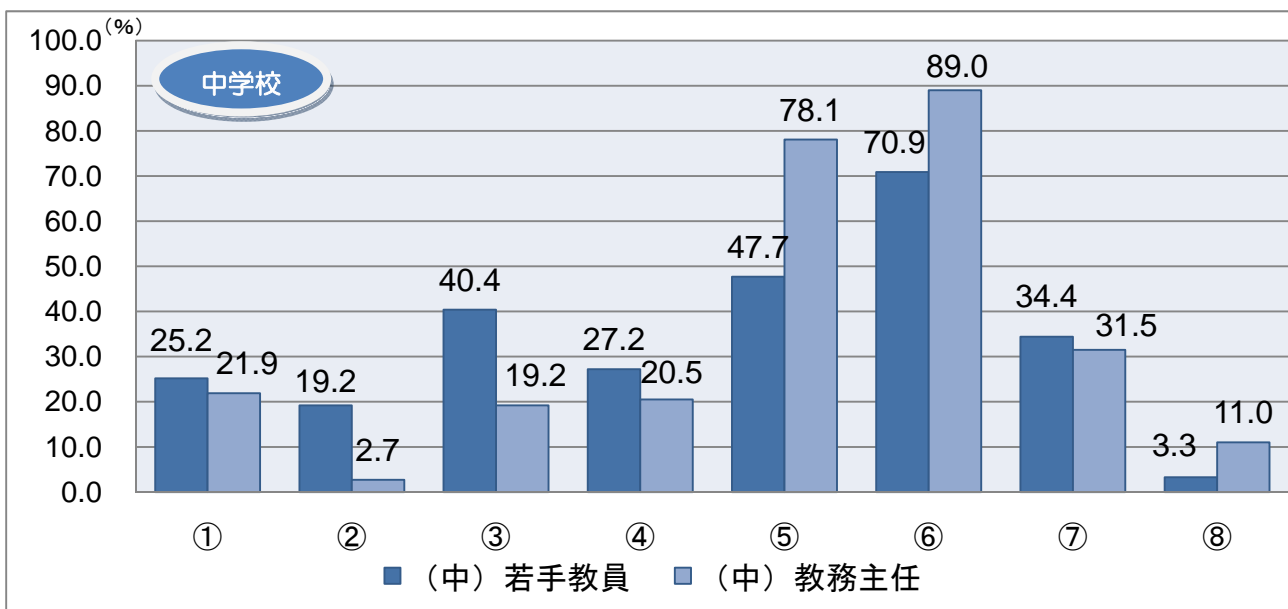
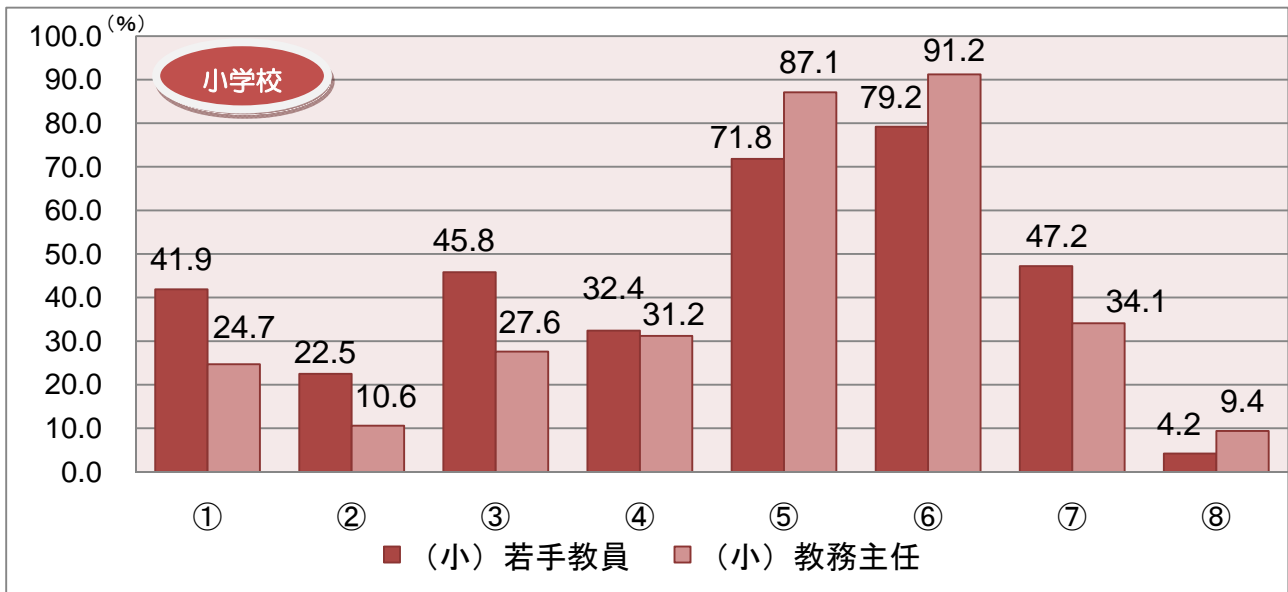
若手教員は、「子どもの成長や発達を深く理解する力」「教科等に関する専門的な知識」「より確かな実践的指導力」を高めていきたいと考えている割合が高いことがわかります。中でも「教科等に関する専門的な知識」については、小・中学校ともに、教務主任が高めてほしいと回答した割合の2倍以上になっています。

一方、教務主任は、「子どもに対する愛情や責任感」「総合的な人間力(社会性や常識など)」についても幅広く高めてほしいと考えていることがわかります。

◆ 若手教員が抱える困りや悩みと、教務主任が把握する困りや悩みには
〔多少の違い〕がみられます

② 学級経営において、どのような内容で困ったり悩んだりしましたか。【上位3つ選択、その他は記述】

- ①学級経営年間計画の作り方
- ②学級目標の作り方
- ③4月の学級開きの仕方
- ④教室環境の整え方
- ⑤学習ルールや規律づくり
- ⑥子ども同士の人間関係づくり
- ⑦日常的な活動（朝・帰りの会、給食・昼食時間、清掃活動など）
- ⑧その他

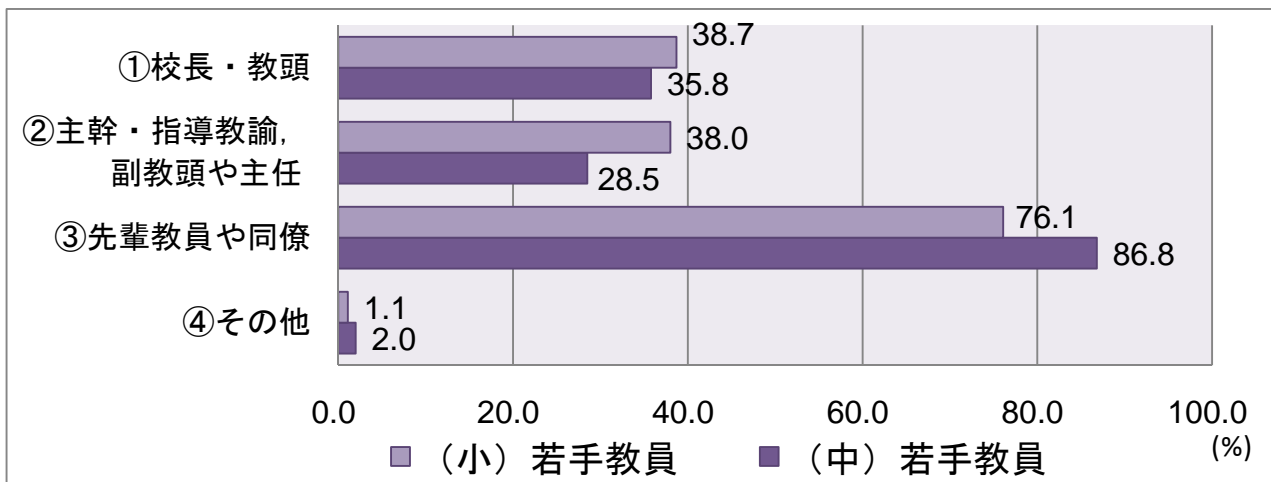


若手教員が抱える困りや悩みで多かったのは、小・中学校ともに「子ども同士の人間関係づくり」、次いで「学習ルールや規律づくり」となっています。また、若手教員が抱える困りや悩みの件数を比べると、小学校が中学校の約1.3倍になっています。

若手教員の抱える困りや悩みと、教務主任が把握する困りや悩みには、〔多少の違い〕がみられます。若手育成の担当者は、若手教員の学級経営に関する実態をできるだけ正確に把握し、個に応じた適切な助言ができるようにすることが大切だと考えます。

◆ 若手教員は、先輩教員や同僚から助言を受けることが多く、「教科等の授業実践」や「学級経営」（小学校）、「生徒指導」（中学校）といったすぐに実践に活かすことができる内容の助言を求めています

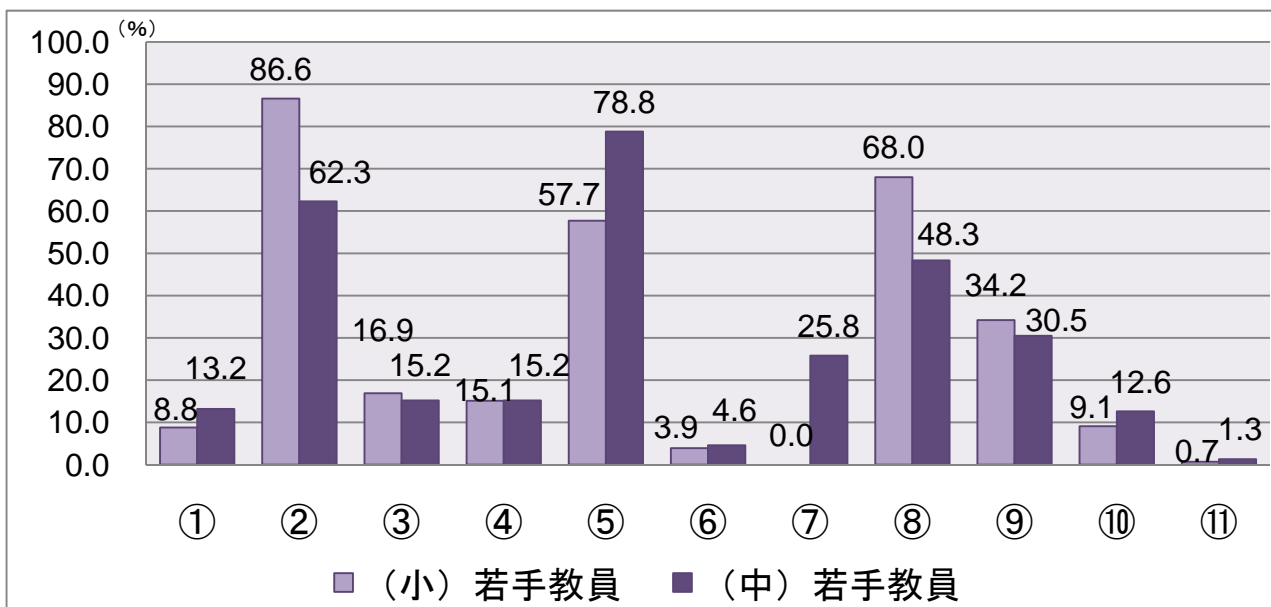
③ あなたは、校内で、だれから助言を受けることが多いですか。【複数回答可】



④その他…養護教諭，スクールカウンセラー，管理用務員，事務職員，生徒や保護者

④ あなたは、どのような内容の助言を受けたいと思いますか。【上位3つ選択, その他は記述】

- ①教科等の理論 ②教科等の授業実践 ③教科等の実習 ④人権教育
 ⑤生徒指導 ⑥教育相談 ⑦進路指導 ⑧学級経営
 ⑨家庭や地域との連携, 保護者対応 ⑩教師としての姿勢や心構え ⑪その他

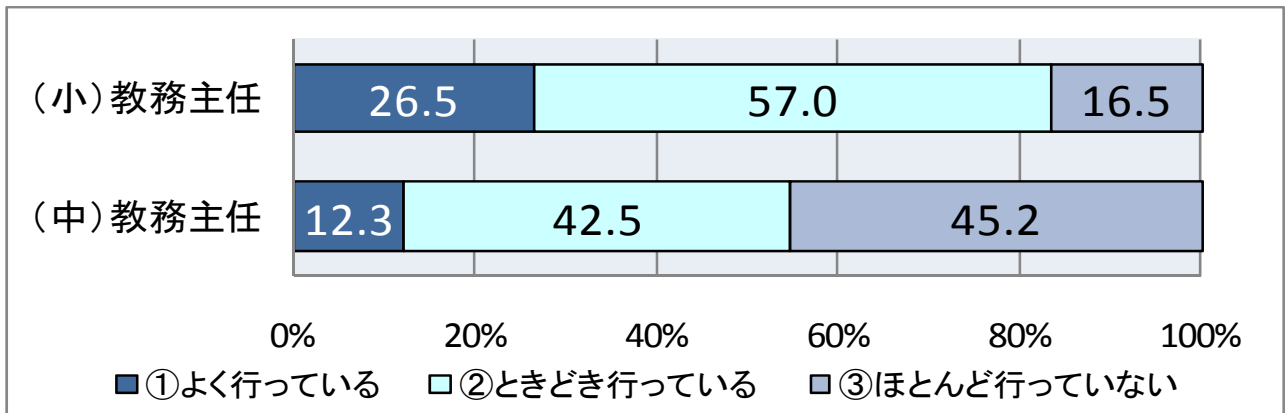


小・中学校ともに、「先輩教員や同僚」から助言を受ける機会が、「管理職」や「主幹・指導教諭や主任」よりも多く、約2倍となっています。

また、助言を受けたい内容については、小学校の若手教員は「教科等の授業実践」「学級経営」「生徒指導」、中学校の若手教員は「生徒指導」「教科等の授業実践」「学級経営」の順にニーズが高いという結果になりました。このことから、若手教員は、実践ですぐに活用することができる内容の助言を求めていることがわかります。

◆ 「若手教員の教師力向上」に焦点をあてた、組織的な取組や助言を行っている学校が増えてきており、効果があると感じています

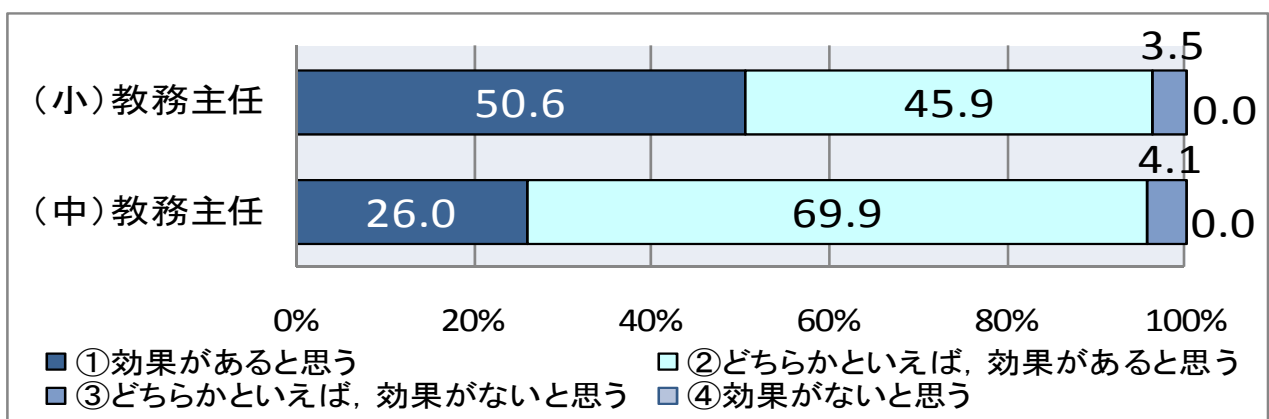
⑤ あなたの学校は、「若手教員の教師力向上」に焦点をあてた、組織的な取組や助言を行っていますか。



＜組織的な取組の内容＞【記述】

- ・若手教員の授業研究や教材研究
- ・(理科の実験や体育などの)実技研修
- ・ベテラン教員や中堅教員が講師
- ・学級経営等の自主研修
- ・若手教員の授業参観や示範授業
- ・支部での若手教員研修会
- ・管理職や主任が講師
- ・外部講師を招いた研修 など

⑥ あなたの学校は、教師力の向上をめざして若手・中堅教員が主体的に学び合う取組(「若手・中堅教員実践道場」など)について、効果があると思いますか。



＜そう思う理由＞【記述】 ○…効果があると思う理由 △…効果がないと思う理由

○具体的な悩みやアドバイスをお互いに話しやすいから。

○実態に即した課題の解決につながるから。

○仲間意識が高まり、学校組織が活性化するから。

△多忙で時間がないから。

△ニーズに応じたテーマや方法、場の設定が必要だから。 など

「校内での組織的な取組や助言の頻度」については、小学校の方が中学校よりもよく行われていることがわかります。また、このような取組について、「効果がありそうだ」と考えている教務主任が多いことがわかります。